令和元年度第４回県民の幸福感に関する分析部会

（開催日時）令和２年１月 31 日（金）10：00～11：20
（開催場所）エスポワールいわて　３階特別ホール

１　開　会
２　議　題
（１）県民の幸福感に関する分析部会年次レポート（案）について
（２）令和２年度県民の幸福感に関する分析部会の開催予定等について
（３）その他
３　閉　会

出席委員等
吉野英岐部会長、谷藤邦基副部会長、竹村祥子委員、
Tee Kian Heng（ティー・キャン・ヘーン）委員、山田佳奈委員、若菜千穂委員
欠席委員等
広井良典オブザーバー

１　開　会

○北島政策推進室評価課長　御案内の時間になりましたので、ただいまから第４回県民の幸福感に関する分析部会を開催いたします。

私は、事務局を担当しております政策地域部政策推進室の北島でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、委員の皆様の出席状況について報告いたします。本日は、委員６名中５名の委員に御出席いただいており、委員総数の半数以上ですので、運営要領の規定により、会議が成立することを御報告申し上げます。

開会に当たり、政策地域部副部長兼政策推進室長の小野から挨拶いたします。

○小野副部長兼政策推進室長　政策地域部副部長の小野でございます。委員の皆様には、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今年度から新しい県民計画がスタートしておりますが、来年度からいよいよ各指標の実績が出てまいりますし、今実施している県民意識調査の結果も出てまいります。その結果をどのように分析し政策に反映していくか、これから走りながら考えていかなければいけない点も多いといったことの中で、この分析部会にお願いしたい点は多々ございまして、さまざま御意見をいただいております。ありがとうございます。

それから、もう一点、この場をおかりいたしまして御紹介申し上げます。今年度新たに県の方で行政経営功労者表彰という知事表彰制度を創設いたしましたが、当部会の谷藤委員におかれましては、これまで県の施策の基本的な方向を定める計画に関する総合計画審議会ですとか、復興委員会、そして当部会委員として重要事項の調査、審議に尽力いただき、質の高い行政経営の推進に多大な貢献をいただいたといったことで、去る１月 10 日で

ございますが、知事の方から表彰差し上げたところでございます。改めて谷藤委員には、これまでのさまざまな御尽力に対しましてお礼申し上げます。ありがとうございます。引き続きよろしくお願いします。

この部会は、本日で今年度４回目でございますけれども、そしてこれまでの県民意識調査がどうなっているかということについて詳細分析いただいておりますので、今年度の検討状況をまとめた年次レポートについてお諮りしたいと思います。これにつきましては、２月 10 日の総合計画審議会に報告するといったことでございますので､引き続きよろしくお願いいたします。

また、来年度の分析部会は、今年の審議内容を踏まえまして、かなりタイトなスケジュールでまたお願いすることもございますので、それにつきましても議題とさせていただいております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○北島政策推進室評価課長　次に、資料について御確認をお願いいたします。本日お配りしている資料ですけれども、次第、名簿のほか、資料１―１、それから１―２、参考資料、それから資料２となっております。よろしいでしょうか。

２　議　題

（１）県民の幸福感に関する分析部会年次レポート（案）について

○北島政策推進室評価課長　それでは、議事に入りたいと思います。

運営要領の規定により、以後の進行は吉野部会長にお願いいたします。

○吉野英岐部会長　おはようございます。第４回目になります分析部会を始めたいと思います。

今日は時間が限られていますので、早速議題に入りたいと思います。第１の議題は、県民の幸福感に関する分析部会年次レポート（案）についてでございます。それでは、事務局から御説明お願いします。

○和川政策推進室主任主査　政策推進室の和川でございます。説明をさせていただきます。

早速資料１―１を御覧いただきたいと思います。こちらにつきましては、これまで本年度皆様方に御議論いただいた中身についてまとめたものでございまして、前回の部会で何点か御意見をいただいております。御意見を踏まえて修正したほか、事務局で誤字、脱字等をチェックさせていただき若干の微修正をしたものを最終版として御報告させていただきます。

まず、めくっていただきまして、目次が書いてございます。こちらは既に御存じのとおりではございますけれども、今回の検討結果は大きく２つございました。まず、メーンの検討項目につきましては、新たに実施するパネル調査、県民意識調査の補足調査でございますけれども、こちらの調査設計です。まず、対象者に誰を選ぶのか、そして調査票をどうするのかということを御検討いただきました。これについての結果が掲載されてございます。

そして、２つ目といたしまして、過去の県民意識調査がどういう状態だったのかという

ものを確認しました。こういった２つの検討項目について今回まとめたものになってございます。

さらにめくっていただきまして、２ページを御覧いただければと思います。検討結果の１番といたしまして、県民意識調査（補足調査）、いわゆるパネル調査の調査設計がこちらに書いてございます。まず、１つ目の検討課題の誰を対象にするのかというところでございますが、この点線枠に書いてございます選定手順、まず１番でございますけれども、2,096 人の候補者が手元にございました。そちらの 2,096 人の候補者に対しまして、２番目、まず意向確認調査というものを実施いたしました。1,501 人を選定いたしまして、改めて調査に本当に御協力いただけますかという念押しの調査をいたしました。この選定につきましては、広域振興圏均等に、年齢構成に配慮し若い方を全員選定しています。

３番になります。この選定結果を踏まえまして、調査結果を踏まえ選定したのですけれども、こちらにつきましては日程上の関係がございまして、事務局の方にお任せをいただいた経緯がございます。その結果がこうした調査対象者ということで表になっているところでございます。協力してもよい、どちらでもよいという御回答をいただいた方々から、年齢、具体的には若い人を重点的にとろうということ、あと地域につきましては、150 人を均一に広域振興圏ごとに、できるだけ男女比を偏らないようにしようということを勘案し合計 600 人を対象者として選定をしたところでございます。

年齢構成で見ますと、縦の軸になりますけれども、おおむね 600 人のうちの 16％から 20％の範囲内で各 10 歳刻みの階層になるようにできるだけ調整をいたしました。ただし、20 歳未満につきましては、もともとの候補者が少なかったこともございまして、最終的にはそれまでにはならなかったのですが、18 歳から 19 歳、20 歳から 29 歳を合わせますと、10％ちょっとという状態になってございまして、それほど極端な偏在は出ないように調整したつもりでございます。

また、男女比につきましても、できるだけ男性、女性が地域ごと、全体でも偏りが生じないようにということで調整いたしまして、ほぼ半分ずつというような形になってございます。こういった形で今回調査対象者を選定いたしまして、現在調査を実施しているところでございます。

現在の調査状況を口頭で申し上げたいと思います。１月上旬に調査表を発送いたしまして、今週の月曜日、27 日に第 1 次締め切りを行いました。第 1 次締め切りで回答があった方が 600 人中 515 名、85％の回答をいただいているところでございます。この 85％のほか、回答をいただいていなかった 100 人弱の方々につきましては、昨日改めて催促状といいますか、御協力を改めてお願いしますというはがきを送ってございまして、２月の中旬に最終締め切りをいたしまして、業者の方で集計作業を踏まえて、３月末、年度内に集計がまとまるというスケジュールになっているところでございます。

めくっていただきまして、次が調査項目設定の考え方ということで、具体的には調査票をどう設定するのかというところを御議論いただきました。こちらにつきましては、最終的に参考資料についてございますけれども、こういった形で調査票を取りまとめていただいたところでございます。参考資料ということで調査票を作成いたしまして、現在調査を実施しているところでございます。こちらは、前回の部会でも御議論いただき、終了しているところでございますので、説明を省かせていただきます。

次に、分析につきましては、９ページを御覧いただけますでしょうか。こちらが２つ目の検討課題でございます過去の県民意識調査の分析の結果でございます。１番が分析対象といたしまして、県民意識調査の概要が書いてございます。5,000 人を対象にどういった形で実施しているのか、あるいは幸福に関する設問項目はどういったことを聞いているのかということを９ページにまとめてございます。

10 ページ、それの分析方針をこちらにまとめてございます。分析の視点といたしましては、箱書きにございます。31 年の調査結果をまず見ていきましょうということで、直近の 31 年の属性の分析をしたこと、２つ目として、過去４年間幸福に関する設問を入れて調査をしてございますので、その４年間、どのように推移しているのか今回調査してきたということが書いてございます。

分析データ及び分析の方法につきましては、これまで議論してきたとおりでございますので、説明は省かせていただきます。

では、ページをめくっていただきまして、11 ページを御覧いただければと思います。こちらからは、実際の分析結果が書いてございます。冒頭のリード文に書いてございますけれども、申し上げましたように県民意識調査の属性別での特徴を把握するために、まず直近となります平成 31 年の調査結果を分析いたしました。

次に、県民意識の変化の状況を把握するために、４年間の時系列の変化の有無を分析しましたという中身になってございます。

分析結果の留意事項としまして、１番、２番、３番とございます。１番目につきましては、分析のデータ、あるいは集計方法が既に公表されている県民意識調査の公表データとは異なっていますよと、数値が異なる場合がありますということが①番に書いてございます。

２番目は、分析の方法についてでございますけれども、今回はティー先生のアドバイスもいただきながら、10 ページにも書いてございますけれども、一元配置分散分析という手法をとりまして、属性差があるかどうかというものを検証してきました。この属性差の有無につきましては、分散分析で差があると判断された属性を対象に、最も高い区分と最も低い区分を機械的に記載しているという中身になってございます。例えば先ほど申し上げました一元配置分散分析で、年齢で差があることが確認された場合には、最も高い年齢と、例えば 70 歳以上とか、最も低い年齢、30 歳代はどうだったという、そういった高い年齢と低い年齢を記載しているという中身になってございます。

ただし、18 歳から 19 歳、あとは 60 歳未満の無職につきましては、サンプル数が非常に小さい関係がございまして、別紙にグラフが書いてございますけれども、グラフ上は非常に高かったり、非常に低かったりしているところがあるのですけれども、サンプル数が少ないというところで分析対象からは除外しているということになります。

③番です。今回の分析の目的は、あくまでも来年度以降の分析に活用するための現状の確認の整理が目的であります。今回の分析を踏まえた詳細な分析につきましては、申し上げましたパネル調査の結果を踏まえまして、来年度調査から行っていくということを記載しているところでございます。

２．３．１、主観的幸福感の分析結果ということで、（１）、31 年調査の主な分析結果が書いてございます。県全体では５点満点中 3.43 点であったこと、それ以降属性別あるいは

地域別に見た特色を箇条書きで書いているところでございます。以前は、家族がいる人の方が幸福感が高いとか、そういったある程度解釈を加えた表現もあったところなのですけれども、解釈を加えると研究会としてそういった属性、そういった生き方が望ましいというミスリードを与えてしまうおそれもあるという御指摘もございまして、あくまでも分析結果を淡々と、事実を書いているという記載に修正になっているところでございます。

ページをめくっていただきまして、13 ページに参りますと、先ほど申し上げましたように、28 年から 31 年までの時系列の分析結果が掲載されているという中身になってございます。具体的には、表１を御覧ください。例えば広域振興圏別で見ていきますと、おおむね横ばいに推移しているのですけれども、県南につきましては足元であります平成 31 年に統計的に有意に低下しているという結果が得られています。

14 ページ以降につきましては、分野別実感の分析結果がそれぞれの設問ごとに掲載されているところでございます。例えば（１）番、心身の健康の実感について御説明申し上げますと、①番では、まず直近の平成 31 年の調査結果を記載しているところでございます。そちらを取りまとめたものがゴシックで記載されておりまして、その詳細な分析結果がポツレベルで箇条書きに書いているところでございます。１つ目のポツでは、全体像といたしまして、「こころとからだの健康」というのは５点満点中３点、12 の設問中２番目に低い値となりましたというところで全体像が書いてございまして、それ以降属性別の分析結果を箇条書きで記載しているというところでございます。

②番といたしまして、時系列で４年間の結果につきましてゴシックで概略が書いてございまして、ポツの１番目につきましては、４年間毎年の推移がどうだったのかというところが１つ目のポツで書いてございまして、２つ目のポツにつきましては、調査の最初である平成 28 年と直近の 31 年の２地点の比較の分析結果が書いているという形になってございます。

こういったスタイルで、全て 12 の設問について、18 ページまで箇条書きで記載しているという中身になってございます。

最後に、19 ページを御覧いただければと思います。申し上げました分野別実感の時系列の分析結果を表で取りまとめたものが御覧のとおりになってございます。左側が政策分野、健康・余暇から自然環境まで、そしてそれにぶら下がる分野別実感、それの平均値の推移が書いてございます。網かけで書いてあるところが統計的に有意に差があったと認められたもので、矢印が上がった、下がったを指してございます。

右側の参考につきましては、初年度であります平成 28 年と直近の平成 31 年の２地点間を比較したものが書いてございます。例えば余暇の充実を御覧いただきますと、29 年と 31 年に有意に上昇しておりまして、長期的に見ても有意に 28 年から 31 年にかけて実感が上昇しているということがわかります。

（４）の子育てにつきましては、29 年に上がり、30 年に下がり、31 年にまた上がるという上下運動を繰り返しているのですけれども、28 年と 31 年の２地点間を比較すると、上昇していたというところが右側に書いているという形で、全ての設問項目について表で取りまとめているところでございます。

１―１の説明につきましては以上でございまして、１―２を御覧いただけますでしょうか。年次レポートの概要ということで、Ａ４、１枚の紙がございます。先ほど冒頭の挨拶

で副部長の小野の方からも御説明がございました。こちらの年次レポートにつきましては、２月 10 日の総合計画審議会で御報告を差し上げる予定でございます。御報告に当たりましては、こちらの報告書をそのまま差し上げるとなかなかわかりづらいということもございまして、概要という形で御説明をしまして、報告書とともにこの概要、いわゆるサマリーという形で出したいなと思ってございます。

こちらの概要につきましては、先ほど御説明したものをまとめたものでございますけれども、作成の趣旨、今回はパネル調査の設計と分析をしましたよということ、そしてパネル調査の設計の結果、あるいは今申し上げました分析の結果というものを簡潔にまとめているという中身になってございます。こういった形で、対外的には概要版として活用していきたいなと思っているところでございます。

長くなりましたけれども、以上で事務局からの説明を終わります。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。今お話あったとおり年次レポートの中身についての解説、説明と、今後の出し方について、総合計画審議会２月にありますので、そのときの出し方についても補足で御説明がありました。

年次レポートの中身については、多くの委員の皆さんは、これまでも議論を重ねてきていますので、所見というのはもうないと思いますけれども、御意見がございましたらお伺いしたいと思います。御自由にお手を挙げていただければと思いますが、いかがでしょうか。

では、山田委員、どうぞ。

○山田佳奈委員　私が今まで聞き落としていたら大変申しわけないのですけれども、全レポートはいずれ公表されるものといいますか、ネットとかで上げられるものでよろしいですか。

○和川政策推進室主任主査　はい。この場で御了承いただければ、本日をもって公表いたしますし、この場で修正の指示がございましたらば、事務局で修正をさせていただいて、部会長等に最終的には一任をいただいた形で、調整した上で、公表させていただければと思ってございます。

○山田佳奈委員　わかりました。ありがとうございます。

もし可能であればというところで御検討いただければと思いましたのが、客観的にといいますか、一県民として改めて見た場合ということで、パネル調査をすることによって何がより見えてくるのかということが少し加わるといいのかなと思いました。つまり県民意識調査のみならずといいますか、パネル調査を複数年させていただくということの意図といいましょうか、そういうのがちょっとあってもいいのかなと。

○和川政策推進室主任主査　質問ありがとうございます。御質問の趣旨は、いわゆるパネル調査の意義、やる意味を少し加筆した方がよろしいのではないかと理解しました。１の（１）、調査設計、新たに実施する補足調査の調査設計のところがございますので、ここに

まずパネル調査をやる意義というものを二、三行書き加える形で修正をしてはいかがかなと考えてございますが。

○山田佳奈委員　ありがとうございます。パネル調査を新たに実施するということで、これから何年もお世話になる方もいらっしゃるので、少し加えていただくといいかなと。ありがとうございます。

○和川政策推進室主任主査　かしこまりました。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。今のは、レポート（案）の８ページに書いてある補足調査の概要の目的のところには、ほぼ書かれてはいるのですけれども、確かに参考と最後に出てくるので、非常に大事な部分が一番最後の参考でよかったのかなというところはある。中身はこのとおりなので、書かれていることをどう表現するか。前の方に出すのか、あるいは参考にもっと述べるのか、ちょっとまた事務局と部会長で協議いたしますけれども、ここが少しきちんと読み手に伝わるようになれば問題ないと思っていますので、ちょっとそこの書き方を検討したいと思います。

○和川政策推進室主任主査　よろしくお願いします。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。そのほかいかがでしょうか。
　では、若菜委員、よろしくお願いします。

○若菜千穂委員　11 ページなのですけれども、これ誰が読むのかなと思うと、一県民にはわかりづらい表現になっているので、そこら辺は余り考えていないのかなということで、それでもちょっと 11 ページで確認したいのですけれども、母集団に対する拡大集計がずっと気になっていて、ここは居住地で拡大をしているということですが、年齢も拡大しているのですか。

○和川政策推進室主任主査　居住地のみの拡大になります。

○若菜千穂委員　そこは、問題はないのですか。

○和川政策推進室主任主査　それは、県民意識調査として問題があるかという意味合いでしょうか。

○若菜千穂委員　例えば 12 ページの図表の一番最初に出てくるので、これが重要なのかなと思って、広域圏別で常に一番に来るではないですか。11 ページの（１）の②も、広域圏別がまず載って、県は広域圏別を見たいのだなという気がするのですけれども、そうすると例えば何となくですけれども、県北の方が高齢化率が高くて、南の方は高齢化率が低いとなると、通常であれば年齢に対する補正係数を掛けて、それで県全体で出したりする

のですけれども、そういうことはしていませんよというのであれば、それはそれで明記すべきかと思います。

○和川政策推進室主任主査　今回分析しているのは母集団拡大集計をしていないもので、まず分析をしているということです。ただし、一般に公表している県民意識調査は母集団拡大集計をしているもので、今回我々といいますか、部会でやった意識調査の分析とは結果が異なりますというのはここに書いてございます。なので、今回ここに載っているのは、全て拡大集計をしていないデータで分析をしているということになります。

○若菜千穂委員　拡大集計も、土地、地域差は拡大集計をしているけれども、年齢はしていないよという、そういうこと。

○和川政策推進室主任主査　公表データはそうなのですけれども、今回部会として分析をしたものについては、拡大集計は地域もしていないです。全く何も手を加えていない、いわゆるローデータの状態で分析をしております。

○若菜千穂委員　これは、このままこれから公表するのですよね。

○和川政策推進室主任主査　そうです。

○若菜千穂委員　では、この 12 ページは地域の拡大集計も行っていない。

○和川政策推進室主任主査　いないものです。

○若菜千穂委員　では、この留意事項の①は。

○和川政策推進室主任主査　いわゆる公表データ、既に公表している県民意識調査のデータは拡大集計をしているのですけれども、当分析部会の分析データは単純集計結果、いわゆる拡大集計をしていないものを使っているので、分析結果は既に公表しているものと異なっている、異なる可能性がありますということを書いてございます。

○小野副部長兼政策推進室長　公表データの定義が何の公表なのかというのが。

○若菜千穂委員　何の公表かというのと、あと単純集計結果というのは、母集団拡大集計を行っていませんよという意味なのですね。

○和川政策推進室主任主査　そうです。

○若菜千穂委員　わかりました。では、12 ページも全部、地域も年齢も拡大集計を行っていないということですね。

○和川政策推進室主任主査　はい、そうです。

○若菜千穂委員　そのときはということなのですけれども、それであれば県の合計、県計、例えば 12 ページ以降ずっと県計と出るのですけれども、合計というよりも、単純に全体の平均ということだと思いますが、何か誤解を与えるなという感じがします。例えば県全体の幸福感は、５点満点中 3.43 点と言っていますけれども、拡大集計は行っていないので、わかる人はわかるけれども、本当は年齢でどれぐらい有意差が出るかはあるのですけれども、例えば高齢の人の方が、私がワークショップをやった感覚では、年齢が高いほど幸福感は高いです。若いほど 2.5 とか、年齢が上がってくると 4.3 とか出てくるので、そうすると本当は年齢で拡大集計、補正係数掛けてしまえば、実際は 3.43 より多分４に近くなるのではないかなと思っていました。拡大集計をしていないというところの強調がもう少し必要かなと思いました。

そうすると、これをずっと続けていくに当たって、基本的には拡大集計をしない中で、この中から政策に結びつけるのですか。

○和川政策推進室主任主査　今後母集団拡大集計をしないで分析をしていくのかという御質問でしょうか。

○若菜千穂委員　そうですね。

○和川政策推進室主任主査　そうです。そのような形でやっていくという御議論になったかなと理解しています。

○若菜千穂委員　失礼しました。わかりました。

では、あともう一個なのですけれども、11 ページの①で全体が 3.43 ですよと。次に、広域圏が出てくるのですけれども、ちょっと単純にぱっと見たいなと思うのが 12 の要素ごとの数字、後ろの方に、19 ページに表があるのですけれども、これについてもぱっと最初にあってもいいのかなと気はしているのですけれども、これはグラフはないし、表だけですしという感じですけれども、ここは余り要素ごとの差というのは、今回はパネルで経年変化の方を中心に見るということだと思うのですけれども、一番見たいのは、この流れで行くと広域圏別の差が見たいのかなと受けとめられてしまうのですけど、分析で重視しているところはどこになるのでしょうか。

○和川政策推進室主任主査　今回は、どちらかといえば何かを探ってどうこうということではなくて、得られたものを網羅的に、直近の平成 31 年で言えば、どの属性が高くて、どの属性が低いのかという、そういう事実を把握しようということ、あるいは時系列で言えば、上がっているのか下がっているのかという事実を把握していこうということになりますので、順番がもしも前に来なければいいのではないかというのであれば、性別を一番上に持ってくる方法はあると思います。特に何か意図を持ってこの順番にしてきたというつもりは、事務局としてはないところです。

○若菜千穂委員　では、それであれば、私は何かの属性を見たいということであれば、圏域の属性はちょっと後ろの方にしていただきたいなという気がします。

○和川政策推進室主任主査　わかりました。それは可能でございます。

○吉野英岐部会長　副部長、どうぞ。

○小野副部長兼政策推進室長　11 ページのところは、いずれ属性をまず整理して、若菜委員おっしゃる重要なところは分野別ということで、ただこれから政策を考える上でどこが重要なのかなというのは、確かに若菜委員おっしゃるように分野別も重要という感じでしょうか。政策に落とし込む中で見ていくところは、地域なのか、分野なのかというのは。

○若菜千穂委員　やっぱり属性で来られると、最初に指摘されていたミスリードというのもあるなという気もするのですけれども。

○小野副部長兼政策推進室長　ここは、決してどちらに重点を置くかという観点で前に出したわけではなかったのですけれども、ただ読まれる方がというところはありますよね。

○若菜千穂委員　やっぱり読む方としては、前にある方を重視して書いているだろうなというように読みます。私はですけれども、どうですか。通常こういうレポートは、一重要なところを先に書きませんか。

○山田佳奈委員　ポイントと見てしまうことはあるかもしれませんね。

○若菜千穂委員　そのときに、この順番でいいのかなという。県はここを重視しているのだなと少なくとも見ます、この 11 ページは。

○小野副部長兼政策推進室長　例えば全体の状況は重要だと思います。これはまず言わなければいけないと。あとは、例えば今の考えで言うと、分野別のところを見ていきたいと。あとは、属性として整理をするというのはあるのかなというのはおっしゃるとおりだと思います。

○若菜千穂委員　これはホームページとかで上げなければいいのですけれども、ホームページで上げるとなるとどうかと思います。

○小野副部長兼政策推進室長　これは審議会の部会ですので、全部公開となります。

○吉野英岐部会長　受けとめ方は、確かにさまざまあって、最初に書かれていると一番重要かなという人もいれば、これは実は同じぐらい重要なのだけれども、どうしてもページの都合上、こう書かざるを得なかったのですよというようなことで、どっちとも受け取れ

ますが、形式的なことを今の若菜委員のことからちょっと私自身で考えてみたら、確かにこの主観的幸福感の属性分析については、グラフはあるのだけれども、表はないのですよね。だから、何.何々というのは、実はグラフからは読めないわけではないけれども、書いてはいないと。だけれども、後ろの分野別実感分析は、逆に言えば細かい数字は載っているのだけれども、グラフはないではないかと。では、どうして全体の方だけグラフをつけて数字は載せず、後半の方は逆にグラフは載せないのだけれども、数字は載せているという、何か意図はあるのかと言われれば、意図はないのですよね。

○和川政策推進室主任主査　まず、情報とすれば、おっしゃるように、グラフを本来は全部載せればよかったのですけれども、ページ数の関係もあるのでということもあって、一番注目を浴びるであろう全体の幸福感については、まず丁寧に御説明する必要があるのかなということで、12 ページのグラフが載っていて、ほかは載っていないというのはそのとおりでございます。

あと、数字が載っているのは、実は 19 ページも時系列の数字ですし、13 ページも時系列の数字ですので、数字が載っているという事実は、私は変わらないかなと思うのですが、ここに広域圏だけ載っているからということなのであれば、確かにおっしゃるとおり、これは広域圏が上の２の②のところで下降しているという事実があるので、これを補足するために載せているというところではあります。

○吉野英岐部会長　これだけ載せると、県はいわゆる地域別のデータを重視しているように受け取られることもあるだろうなと。だから、今回はおっしゃったように事実をなるべくきちんと載せて、解釈についてはもう少しデータがそろってからやるという全体の趣旨があったので、となればちょっとボリュームが増えてしまうかもしれないけれども、特にどれを重視したということが逆にないわけですから。

○和川政策推進室主任主査　これにつきましては、削るという選択肢でも、これはあくまでも今年度の分析、御議論いただいた結果をまとめたという趣旨で事務局としてまとめてございまして、部会の中で県南部が下がっているのではないかと、地域ごとが下がっているところがあるので、そこをもうちょっと見た方がいいのではないかという御議論がございましたので、特に地域別での御議論があったものですから、それを踏まえてここは掲載をさせていただいたということでございまして、事務局としてわざわざ広域圏を取り上げたというわけではないというところは申し上げたいと思います。

○吉野英岐部会長　細かいデータは、参考資料の２で一括して載せているのですね。だから、細かいデータは参考資料２にも掲載されていると書いてもいいし、特段何かを特出しするということは、そこをすごく重視していると受け取られる可能性があるとすれば、特出しは今回はしなくても、数字をきちんとホームページに載せてあれば、あとは参考資料で見てくださいというのも一種のやり方かなとは思いました。

そうしたら、協議しましょうか。私は、確かになくても大丈夫かなと。後ろの参考資料の方にきちんと載せてあれば、それはそれで見る人はきちんと見ていただくかなと。

○和川政策推進室主任主査　かしこまりました。

○吉野英岐部会長　ちょっとそれは協議しましょうか。私は、確かになくても大丈夫かなと。後ろの参考資料の方にきちんと載せてあれば、それはそれで見る人はきちんと見ていただくかなと。

○和川政策推進室主任主査　かしこまりました。そうしますと、12 ページは全く削除するような。

○吉野英岐部会長　12 ページはそのままで、表 1 の方。

○和川政策推進室主任主査　表 1 の方ですか。

○吉野英岐部会長　むしろ表 1 だけ載せたから、広域圏別に対して非常に強い関心を部会、あるいは県が持っているというように受け取られる可能性もないわけではないですよねと。

ただ、今言ったとおり県南が下がったので、県南について議論しましたけれども、部会全体として広域圏別に対して非常に強い関心を持って議論したというよりは、確かにこういう事実があったので、どういうことなのかなということはやりましたけれども、全体としてはやっぱり時系列で比較すること自体に意味があるということを言われましたので、この 12 ページは私は残しておいてもいいかなと思いますけれども、13 ページの方の表 1 については、載せるならほかの表も載せた方がいいし、載せないなら載せなくても意味は通じていますので、なくても大丈夫かなという気はしました。むしろこの表は後ろの参考資料に載せてもいいかなと。

○和川政策推進室主任主査　わかりました。そうしますと、13 ページの（２）の②は、記述はそのまま。

○吉野英岐部会長　記述は残しておいてもいいと思いますけれども。

○和川政策推進室主任主査　かしこまりました。

○小野副部長兼政策推進室長　すみません、教えていただければと思いますが、11 ページのところの（１）の①で、②と属性ごとの状況を示しておりまして、14 ページのところは分野別実感を示していると。通常こういったものは、やはり属性を前に出して整理をしておくというのが一般的なのかどうなのか教えていただきたいと思います。

一方で、今回の県民計画、幸福度、いわゆる主観的なもの、全体的な総括、そして施策といいますと、10 の政策分野に分かれて、そのためにさまざまな施策を推進していきましょうといった計画の構成からすると、まず全体としての幸福感、そして分野別実感と流れていくのは、計画の方の見方からするとわかりやすいかなという気はするのですけれども、一方で 11 ページのところの県全体、それから性別なりなんなりと属性から整理していくの

が、やはりこれは報告書とすると正しいということであれば、そういったものもあるのかなと。

○若菜千穂委員　ごめんなさい。ちょっと違和感があったので。違和感の部分なのですけれども、11 ページの２．３．１で整理していって、それごと上げて、14 ページ以降は分野別があるよということで、14 ページ以降は本当に淡々と書かれていて、基本的にこういう書き方でいいと思うのですけれども、11 ページは抜き出しているのです。属性を見たいということであれば、12 ページは属性というか、グラフで言えば６つありますよね。だから、単純に２．３．１の（１）、（２）を分けている理由がちょっとわからないのですけれども、２．３．１の（１）で、14 ページの分野別実感のように、（１）は全体の幸福感の数字、（２）はグラフのとおりに行くのであれば、広域圏別、（３）が世帯別、（４）は子の人数別という感じで淡々と行った方がいいのではないかと思うのですけれども、それであれば（１）から（７）まで行くのですけれども。なのに、11 ページでは４つしか取り上げていないというところの違和感。淡々と行くのであれば、14 ページ以降のように６つの属性をそのまま素直に書かれた方がいいのではないかなと気がするのですけれども。

○和川政策推進室主任主査　ありがとうございます。まず、主観的幸福感、11 ページにつきましても 14 ページにつきましても、何か我々が恣意的に分析するものを練ったというようなことではなくて、統計的に有意だったものだけが書いてあります。したがいまして、統計的に見たところが多かったものは多く書いていますし、少なかったところは少なく書いてあるという記載になってございます。

ただし、主観的幸福感につきましては、まとめ方としてある程度グルーピングをした方がいいのかなということで、４つ頭出しをしています。違和感があるのであれば、グルーピングせず分野別実感と同様の記載方法にするということも考えられます。属性については、あくまでも統計的に有意なものだけが記載されているという整理になっています。

○若菜千穂委員　どうですか。私は普通に一個一個、14 以降のように。

○吉野英岐部会長　全部載せた方がいいと。

○若菜千穂委員　うん。

○和川政策推進室主任主査　留意事項の②番が先ほど申し上げた部分になるかなと思います。11 ページの分析結果の留意事項の②番のところに、区分間で差があると判断された属性を対象に、最も高い部分と低い部分を記載しているということになります。

○吉野英岐部会長　その中で、今 12 ページにグラフ６個載っていますけれども、記述的にはこのうち３つを使っているのかな。性別の記述と世帯構成の記述と広域振興圏別の記述を抜き出しているわけですよね。そうすると、逆に言えば年代別とか、子どもの数別とか、職業別については、グラフは載っているのだけれども、記述の面では今回はしていな

いということですよね。11 ページには、全体の幸福感は 3.43、そしてクロス集計してみた結果が②、③、④。ところが、グラフは 6 個あるわけですよね。

○和川政策推進室主任主査　おっしゃるとおりですが、例えば③については性別と年齢と職業をまとめて書いてございまして、④では世帯と子どもの数を書いてございます。グルーピングの仕方が悪いというのであれば、14 ページのように個別に書いていくというやり方はあろうかと思うのですが、わかりやすい方がいいのではないかというお話もございましたので、では幸福感だけについては少しグルーピングをしようかという、そういう流れになってございます。

ただし、分野別実感の方は、ちょっとそこまで行くと切りがないので、ここは淡々とやっていこうということでの整理になってございます。そのために、主観的幸福感が比較的厚く、見やすさを重視して、分野別実感は比較的淡々と書いているというトーンの違いはあるかと思います。

○吉野英岐部会長　例えば③というのは、要するに個人の属性に着目したということですよね。

○和川政策推進室主任主査　はい。

○吉野英岐部会長　年齢とか、性別とか、職業は個人的な属性だと。

○和川政策推進室主任主査　はい。

○吉野英岐部会長　④は、家族についていうと２つやって、その２つについて分析をしましたよということなのね。

○和川政策推進室主任主査　はい。

○吉野英岐部会長　だから、３個と２個で固まっているということ。

○和川政策推進室主任主査　はい、そういうことです。網羅性は変わらないと。

○吉野英岐部会長　合計すると 6 個あるのですよと。わかりました。

主観的幸福感が 3.43 という全くのクロスをしていないのは、県計を見ればわかるということなのですか。

○和川政策推進室主任主査　おっしゃるとおりです。

○吉野英岐部会長　全てのグラフに対して、県合計というか合計ですかね。

○和川政策推進室主任主査　はい。

○吉野英岐部会長　ちょっと記述がまとまっているということなのね、11 ページは。

○和川政策推進室主任主査　おっしゃるとおりです。

○吉野英岐部会長　14 ページ以降は、淡々と全部分離して書いてあると。

○和川政策推進室主任主査　はい、そういうことです。

○吉野英岐部会長　若菜さん、わかりますか。

○若菜千穂委員　わかるのですけれども、淡々を重視するか、②、③、④の小見出し、まとめて書かれているとは思うのですけれども、要らないのではないのと。

○和川政策推進室主任主査　そこは、部会の方でそうしていただくのであれば、我々の方でただこれを箇条書きにするだけですので、そこは差し支えないです。

○吉野英岐部会長　そうですよね。逆に、小見出しがあると固まって見えてしまうということね。１個ずつ６個並べた方がいいですかねということ。

○若菜千穂委員　私はそう思いますけれども。

○吉野英岐部会長　それで、一番最初に広域圏別を持ってくる必然性は余り感じられないと。

○若菜千穂委員　でも、淡々性を重視するのであれば、小見出しがなければ、淡々とこのグラフについて１つずつ触れているという表現により見えるので。本当に小見出しをつけるとそうなりますよね。

○吉野英岐部会長　中身は全く同じなので、書いてあることはそのとおりですので、表記の仕方について、６個グラフがあるのだから、６個別々に表記をしても全く内容は同じということです。その方が見やすいとか、読み取りやすいということであれば、それでもいいと思います。どうでしょうか。

○竹村祥子委員　この小見出し自体がポジティブな表現になっているので、これは良いと思います。問題点は、このデータの中の高い方ではなくて、低い方なのだと思うのです。そこへ本当は着目したいところだと思うのですけれども、そういう書き方はやっぱり県の資料としては出せないのではないかと私は推察したのですが、いかがでしょうか。その意味からいうと、私はこの小見出しは必要なのではないかと思います。表現についてはいろ

いろと御努力いただきまして、11ページの④は、高い方を書いていただいておりますけれども、注目したいのは、ひとり暮らしとか子どもがいない場合が低いことですよね。

ただ、政策として、ひとり暮らしをやめさせられるわけではないし、幸福の指標は、集団でどんな状態と幸福が関係するかということを聞いているわけです。社会関係の幸福というようなことを聞いていますから、その要素から遠く、少なからず孤立型になってくるところに幸福度が低く出るというのは、他の国や何かの調査も似たような傾向になると思うのです。だから、この表記はこのままの方がよいと思います。なおかつこの項目立てをしておいた方が、政策評価に使うデータですから、実際のアカデミックな分析であれば、こうは書かないかもしれないのだけれども、政策評価に使うということは総合計画で約束しているわけですから、これで何らかの政策に直接示唆を与えるデータと考えれば、広域圏別がまずそれぞれの地域評価になるわけです。だから、この4項目は残した方がいいのではないかと思うのですけれども、若菜さん、いかがですか。解釈の問題ですが。

○若菜千穂委員　改めて今の先生のお話聞いても、申しわけないですけれども、私は11ページ、12ページのグラフ自体もうなくした方がいいなと思いました。だからそうしてくださいとは言いませんけれども。というのは、やはり県の方は分析を淡々としましたと言いますけれども、これ見ると、やっぱり子どもがいない人の方が幸福度が低いとなるし、県北はやっぱり低いとなる。

私は、この幸福の指標というのは、政策で使う場合にも、低いからそこに重点的にお金をつぎ込みましょうというのは、単純過ぎる施策の展開の仕方だと思うのです。低く見えるだろうという意識の問題が強いのではないかなと思っていて、子どもがいない方が不幸ですよねという、そういう刷り込みみたいなものがむしろあって、反映されているのではないかなという気もして、子どもがいないから不幸、だから子どもをつくりましょうという、そういう単純な政策にはならないとは思うのですけれども、なってしまうのではないかなという不安も、ある程度そこは属性で幸福度を出すということが、そこを目的としていましたかという気がするのです。私は、この属性で、単純に12ページのこういう分析自体載せない方がいいと、あえて言うなら載せない方がいいと思います。議事録に残っていればそれでいいです。でも、これ自体危険なことをしたなという、幸福指標はこのためにつくったのかという気がしました。

○吉野英岐部会長　そのほかの委員の先生方、いかがですか。

はい、どうぞ。

○山田佳奈委員　私は、あまり数字が得意ではないのですけれども、若菜委員さんが今おっしゃったことは、多分すごく根本的なお話というか、そもそも幸福感というのをどう分析するかということと物すごくかかわってくる話だと思うので、今これを出すか出さないかというのは、ちょっと分かれ目のような気はしています。

ただ一方で、どこまでを出すかという判断になるかと思うのですけれども、このグループを出すこと自体も危険だという話ですよね。

○若菜千穂委員　この分野別実感のところだけでいいのではないかと。

○山田佳奈委員　14 ページ。

○吉野英岐部会長　はい、どうぞ。副部長。

○小野副部長兼政策推進室長　先ほど和川からも御説明しましたように、県民意識調査の母集団拡大集計を行った公表データについては、もう既に属性も含めて公表されております。ですので、基本的スタンスといたしますと、県とするとこういったデータをしっかり公表して、ただ若菜委員おっしゃるように、それがどういう意味を持つのかと、そもそもそれが政策として打つべき、例えば数値に変化がある、あるいは属性によって変化があるものなのかというところを含めて、やはりここはしっかりと議論をしなければいけないと思いますので、そこに何か県としてミスリードするような解釈を、余計な解釈を入れて公表するというのは、今後の議論のためにはよくないとは思っておりますけれども、基本的にはデータとすれば公表することで、この部会であったり、幅広くさまざまなところで議論が進むようにしていきたいというのが基本的な考え方でございます。

また、これだけではなかなか見えないところについて、まさに今実施している補足的なパネル調査、これは来年度早速分析しなければいけないものですので、そこからまた何が見えてくるのか、あるいはそれをもってしても見えないのかといったところも含めて、議論していきたいと思っています。

若菜委員がおっしゃるように、公表することでミスリードがあるのではないのかといったことはしっかり検討して、どう出すのかといったことは考えなければいけないとは思いますけれども、そこに対する変な解釈を与えない、行わないといった前提で公表していければと考えております。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。そのほか御意見ありますか。

○山田佳奈委員　ちょっと補足です。

今おっしゃっていただきましたこととちょっとかかわるのですけれども、先ほど私が申し上げたのは、補足調査をすることの意義は何かということを明確に示した方がいいのではないかなということでした。ですので、今のお話を伺いつつ、やはり今副部長さんがおっしゃったとおり、やはり県民意識調査だけではわからないところをパネル調査で経年的に見ていくことで、さらにその分析を、また部会で検討することで、よりそこを精緻化といいましょうか、よりよい分析に持っていけるようにしたいという意図が伝わるような形で、と。今回は時間もないと思いますので、このままでよろしいのではないかと思うのですけれども、わざわざ別にパネル調査を実施するということの意義といいますか、労力をかけていただきますし、お手間もかけていただくことなので、そういったことの説明の責任といいますか、そこもいずれレポートに入れていただいたらよろしいのかなとは思いました。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。ほかはよろしいですか。

全体的スタンスとしては、今回はまず調査結果について、ほぼこの調査結果の文言を使ってそのとおり記述していくと。４年間継続して経年的に見たのは初めてですよね。だから、今回の試みというのは、４年間通じて見たことがまず一つの大きな意義であって、本当に数値が動いているか動いていないのかというのを確認してみましたというのがあると思います。

その中で、若菜さんおっしゃったように、要するに統計的に有意な、一番高いところと一番低いところで見て、統計的な差が出ているというものを抜き出して見てみると、こういうものが出てきましたと。それは、まず全体は絶対出さなければいけませんけれども、全体を出した上で、クロスをかけた統計的に有意なものは地域別と、それから属性で言えば３つと、家族で言えば２つと。これについてこうでしたと書いてあるということですね。それをどう読むかというのは今後の課題でもありますし、なぜこうなったのかというのは、もちろんこれから解釈について考えなければいけませんけれども、ここは実態と数字はこうでしたというのを、単純集計をもとにしてやったところは、こちらは書いてもいいかなと。既に公表もされているものであるということ。

ただし、何か恣意的に選別する意図はない。あくまで統計的に見たときの結果でこう見えているということなので、そうするとやっぱり記述とグラフは、私は両方あっていいと思うのですけれども、記述の順番とか記述の形式とグラフの並びというのは、これは同じの方がいいですよね。だけれども、よく見ると広域振興圏が最初に出てくるのはいいのだけれども、次に出てくるのは家族なのですよね、このグラフは。それで、最後に男女、年代、職業が出てくると。ところが、記述の方は男女、年代、職業が真ん中に入って、家族を最後に出してくる。これは、何か意図があるのですかねと。全然意図はないのですよと言いたいと思うのですが、だったら記述の順番とグラフの順番がそろっている方が整合性が高いと言われれば、多分そうだよねということなので、その辺は形式論なので、記述の順番とグラフの順番を形式的にそろえて、なおかつ最初に出たからといってすごくそこだけを重視して、今後これに特化して何かをするということでもないので、例えば通常であれば人間、家族、地域と、だんだん拡大していくというのであれば、まず性別とか年齢で見てみたらこうでしたよと。続いて、それを家族的な範疇で見ればこうでしたと。最後に、地域別に見たらこうでしたというと、特段大きな意図はないけれども、説明の順番としてはそうだということを読み手に持っていただけるのであれば、別に広域振興圏のグラフは一番最後につけて、地域という意味で見たらこう結果が出ましたというような記述の順番でも、私は別にいいのではないかなと。そこに大きな上下関係の意図とか、優先とか、非優先の意図はないと。それは今後検討していくものではないかなということですので、淡々とという表現を使いましたけれども、要するに順番の整合性の高い書き方でやって、特段大きな優先の意図を持っていませんということを伝えて書いていただければなと思います。どうでしょうか。

ほかの委員の先生がよければ、今確認したとおり、今どれを特に重視しているというものではなくて、あくまで統計的に有意な差がついているものについてはグラフと文言で説明をいたしますということで、主観的幸福感についてはまとめていただくと。

あとは、分野別実感というのもこのとおりですので、ここは余り大きな異論が出ていま

せんので、このとおりまとめていただくという格好にしたいと思いますが、よろしいですか。

では、谷藤委員。

○谷藤邦基委員　いずれ今回のレポートの分析というのは、既に公表されているデータ、若干違うところはあるとしても、既に公表されているデータについては、改めて時系列的に分析し直したというような趣旨だと思うので、データ自体は既に公表されているものが中心ということであれば、隠す必要はない。ただ、出し方のところは気をつけなければいけないということで、だから座長がまとめられたとおりのやり方でいいと思います。

実際属性にせよ、住んでいるところにせよ、今さら変えようがないのはそのとおりなので。ただ、例えば子どもがいない方の幸福感が低いといっても、それは個別に一人一人見た場合はまた全然違う状況が見えるわけで、集計してみるとこういう数字になっていますということだから、そこは何かの形で強調してもいいのではないか。要するに、子どもがいない人がみんな不幸だと思っているわけでは全然なくて、だから、ここはあくまでも集計値であると、あるいは平均値であるというようなことをどこかで書いていただくことも必要だなと思いながら聞いていました。その上で、それが政策的にどう活用されるかというのは、また次の段階の話だと思いますので、それはまた改めて議論していけばいいのかなと思った次第です。

あと、本当にこういう議論をしている中で、余り細かいことを言うのもなんなのですが、５ページのところ、本当に細かい指摘です。③のところの箱の枠の中の７番と９番、これ精神的影響ではなくて経済的影響ではないかなと。次の６ページの⑧の８の地域の防災体制のところですけれども、ここにたしか消防団を入れるという話があったと思うのです。その辺、実際の調査票と突き合わせてみたわけではなくて、読んでいて気がついた程度のところなので、そこのチェックは１回かけてください。同じになっているかどうか。

それと、読んでいて気になったのは、２ページのところ、最初の文章なのですけれども、調査対象からの逸脱という表現があって、逸脱はいかがなものかなと。要は、転出等によって調査対象から外れる場合ということを言っていると思うので、逸脱というといかにも悪いことをしているようなイメージが出てしまうので、ちょっとここは表現を工夫してください。

あと、これは来年度以降に向けて検討していただきたいところがありますが、ちょっと問題になった性別を回答する部分、25ページかな、ＬＧＢＴの方とか、そういった方々にどう配慮するのかというあたりで、結局３としてその他となったのですが、たまたま法務局の謄本をオンラインでとるようなホームページがあって、そこを見ていたら、男、女、未選択となっていたのです。だから、その他のかわりに、例えば未選択というような表現の方が、もしかするとその他よりはいいかなと思った次第。だから、ちょっとここは来年度以降に向けて、少しまた検討していただきたいところです。

以上、細かいところですが、お願いします。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。これも事実関係にかかわる問題が中心ですので、最後にやった今現在進行形の調査票の設問項目とここに載っている設問項目は当然

一致するべきだと思うのです。その確認だけ再度１回やっていただいて、調査項目、実際やったのが優先されますので、それに合わせる確認をお願いしますと。

あとは、文言ですね。いかにもマイナスのようなレッテルを感じ取られてしまうような文言づけについては、若干御注意をしてくださいということと、最後は性別の選択肢については、さまざま今試行錯誤中かと思いますけれども、法務局さんの方の例があるので、それを参考に、来年以降新しい設問、選択肢にするかどうか御検討いただくと。

３点ございました。取り入れられるところを取り入れていきたいと思います。ありがとうございました。

ほかはよろしいですか。ティー先生、どうぞ。

○ティー・キャン・ヘーン委員　済みません。２ページの調査対象者、聞いたことあるような気がしたのですけれども、これを公表するに当たって、この年齢というのは、いつ時点の年齢というのはなくても大丈夫なのですか。

○谷藤邦基委員　確かに。

○吉野英岐部会長　年齢、地域などを勘案してというところですか。

○ティー・キャン・ヘーン委員　例えば 2018 年 12 月時点とか。

○吉野英岐部会長　選定の方かな。

○和川政策推進室主任主査　平成 31 年１月、前回の調査時点の年齢になりますので、その辺を注に記載をするようにいたします。

○吉野英岐部会長　わかりました。この年齢というのは、そういうことですね。

○和川政策推進室主任主査　はい。調査対象者の表の年齢の部分。

○吉野英岐部会長　31 年１月時点。

○和川政策推進室主任主査　はい。

○吉野英岐部会長　１歳上がっているものね、実際は。わかりました。

そうすると、19 歳の人は 20 歳の方に入っているということ。

○和川政策推進室主任主査　おっしゃるとおりです。

○吉野英岐部会長　そうですね、確かに。ぎりぎりの人は１年でもずれてしまう、そういうことが起こっていますと。

○和川政策推進室主任主査　はい。

○吉野英岐部会長　そのほかいらっしゃいますか。

よろしければ、今いただいた御意見を中心にひとつ修正していただいて、余り時間はないのですけれども、一応委員長の方で最後確認をとらせていただいて、申しわけありませんが、委員長の方で最後オーケーを出した上で、皆さんに最終版はこうなりましたというのを出して公表したいと思います。その手はずでよろしいですか。

○和川政策推進室主任主査　よろしくお願いいたします。

○吉野英岐部会長　できるだけ早目に公表しますけれども、最終的には２月 10 日の総合計画審議会には間に合わせるということもございますので、あと１週間程度で何とか形にしていきますので、御協力よろしくお願いします。

○和川政策推進室主任主査　よろしくお願いします。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。

（２）令和２年度県民の幸福感に関する分析部会の開催予定等について

○吉野英岐部会長　それでは、議題（２）の令和２年度県民の幸福感に関する分析部会の開催予定について説明をお願いします。

○鎌田政策推進室主査　政策推進室の鎌田と申します。資料２に基づきまして説明をさせていただきます。

来年度は、いよいよ政策評価に活用していく年でございますので、政策評価を、県では８月ごろから実施をして、作業を進めてまいりますので、それに合わせてこのようにスケジュールを設定させていただいております。

まずは、調査実施中の県民意識調査、その結果を４月から５月に集計をいたしますので、５月ころには第１回目を開催して、６月、７月と合計３回で変動要因の検討をしていただきたいと思ってございます。そして、10 月に第４回目ということで年次レポートを決定していただきまして、11 月に総合計画審議会に報告するという流れで進めていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

簡単でございますけれども、事務局からの説明は以上でございます。

○吉野英岐部会長　ありがとうございました。最初に副部長もおっしゃったように、タイトなスケジュールが待っているというのはこのとことで、上半期に、10 月も入れると４回ほど開きたいという県庁からの御希望です。

御質問ありますか。無理とか嫌だとか、そういうのはなるべく我慢していただいて。

これ、11 月以降はやらなくていいということ。これから考えると。

○鎌田政策推進室主査　現時点では４回を予定しています。

○吉野英岐部会長　あるかもしれないけれども、まだ未定ということでしょうか。

○鎌田政策推進室主査　はい。

○吉野英岐部会長　ということです。上半期について、つまり年次レポートは、今度は 10 月までにつくらなくてはいけないということでしょうか。

○鎌田政策推進室主査　はい、そのとおりでございます。

○吉野英岐部会長　今回は１月になるけれども。

○鎌田政策推進室主査　年次レポートに記載する内容は、変動要因がメーンになると思いますけれども、それを前半に分析していただきますので、それに合わせて 10 月を今考えているところでございます。

○小野副部長兼政策推進室長　補足ですけれども、いずれ来年度から幸福関連指標、客観指標の方の目標に対する実績が出てきて、いよいよ本格的な政策評価が始まります。それに合わせて、幸福に関する実感といったところを、客観、主観、これをあわせて評価を行っていくということ。その評価のタイミングが８月と、あとは 11 月ということになります。議会に対する報告もございますし、あとは、県で政策評価レポートといったものも作成いたします。また、翌年度の予算に反映させるといった観点がございますので、何としても前半にまとめ上げていくというようなスケジュールになっておりますので、よろしくお願いいたします。

○吉野英岐部会長　特に御異議がなければ、このスケジュールで進めることに理解を得たということにしたいと思います。ありがとうございます。
　今やっている調査が２月中には終わるという考え。

○和川政策推進室主任主査　はい、その予定です。

○吉野英岐部会長　パネル調査の方ね。

○和川政策推進室主任主査　はい。

○吉野英岐部会長　それから、全体の県民意識調査も今やっている。

○和川政策推進室主任主査　はい。同じぐらいのスケジュールで進んでございます。

○吉野英岐部会長　そっちもやっぱりまた載せてくるの。このレポートには、全体の方は。つまり２本立てで動いているわけですけれども。

○和川政策推進室主任主査　考え方としましては、まず全体の県民意識調査があって、それを分析する、いわゆる補足調査という表現がまさしくそのとおりでございますけれども、特に両方を使いながら分析をしていくということになります。

○吉野英岐部会長　５年分のデータがそろうということですか。

○和川政策推進室主任主査　意識調査については、５年目の調査結果が出てまいります。

○吉野英岐部会長　補足の方は、最初のデータが出てくると。それについて、また御議論をお願いしますと。

○和川政策推進室主任主査　はい。よろしくお願いいたします。

○吉野英岐部会長　ということですので、全体の方、それから補足調査の方、両方だんだんデータが増えてきますので、複雑にはなりますけれども、引き続き御協力いただければと思います。
　はい、どうぞ。

○若菜千穂委員　１つお願いがあるのですけれども、どのように公表するかということの難しさを考えたのですけれども、これからどう公表するかというのと、調べたものをどう政策につなげていくかというところで、ちょっと都道府県の事例、二、三でいいので、この県ではこう公表されています、この県ではこう政策に使っていますという、そのフォローをいただいて、二、三事例を御紹介いただけると安心だなというか、つくったときにも、ほかの国のものを含め、日本の各都道府県でこうやっているよというのをちゃんとフォローしてつくっているので、やっぱりそのあたりもぜひお願いしたいと。

○和川政策推進室主任主査　了解しました。かしこまりました。
　正直言いまして、意識と評価を連動させている、しかも幸福というのを評価に組み込んでいるというところは、本県が多分最初かなということであります。ただ、意識調査を実施している県はたくさんございますし、それを分析している県もあるかと思いますので、我々と同じ目的で、同じやり方でというのはないかなと思うのですが、同じような調査をしていて、どう公表しているのか、あるいはどう分析しているのかといったところは、少しお時間いただいて、整理をさせていただければと思います。

○吉野英岐部会長　ありがとうございます。
　そのほかよろしいですか。

（３）その他

○吉野英岐部会長　それでは、議題の（３）は一応用意されていますが、事務局から何かありますか。

○北島政策推進室評価課長　次回の部会は、５月に開催する予定なのですけれども、意識調査の取りまとめ中の開催になりますので、非公開での開催にしたいと考えております。その件について、よろしくお願いいたします。

○吉野英岐部会長　非公開というのは、情報公開条例第７条第１項第５号ということですか。「公にすることにより､率直な意見の交換若しくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれ、不当に県民等の間に混乱を生じさせるおそれがある」場合は、非公開ということが認められているということですので、次回数値が上がってきたばかりということですので、県庁側としては非公開でやりたいということですが、委員の皆さん、よろしいですか。

「異議なし」の声

○吉野英岐部会長　了解いただきましたので、次回５月の会議は非公開でやりたいと思います。

○北島政策推進室評価課長　ありがとうございます。

○吉野英岐部会長　ほかに事務局からございますか。

○北島政策推進室評価課長　特にはございません。

○吉野英岐部会長　それでは、事務局の方にお戻しいたします。

３　閉　会

○北島政策推進室評価課長　長時間にわたって御議論いただきまして、ありがとうございます。

資料については、お持ち帰りいただいても結構ですし、机上に置かれても結構です。よろしくお願いいたします。

以上をもちまして本日の部会を終了いたします。ありがとうございました。